

令和2年度のじぎくクラブ兵庫の被災地支援の取組み

平成23年3月11日、東日本大震災が発生してから早や10年目となりました。県老連では、阪神・淡路大震災で全国から受けた支援に感謝し災害を受けた老連への支援を継続的に実施しています。

【のじぎくクラブ兵庫農園の運営】

南あわじ市の不動氏の農園の一部を「のじぎくクラブ兵庫農園」として位置付け、令和2年6月6日（土）、淡路ブロックの役員及び若手委員と老人クラブの有志20名で、ボランティア活動としてタマネギを収穫。茎と葉を取り箱詰めした後、福島県の大熊町老人クラブ連合会と、楡葉町老人クラブ連合会に各300キロを震災支援としてお送りしました。



福島県大熊町老連からは、タマネギ配布の様子が掲載された広報誌とお礼状をいただきました。また、福島県楡葉町老連からは、個々にメッセージが書かれたお手紙や広報誌、お礼状、そしてお礼品として同町老連女性部の手作りの品（エプロンドレス・クマのぬいぐるみタオル・折り紙箸置き）をいただきました。



なお、今後の県老連の被災地支援は、以下の基本姿勢を踏まえたものとする事が決定しました。

- ア 県老連が阪神・淡路大震災で支援に対する感謝の思いは決して忘れないこと。
 - イ しかしながら、自然災害が相次ぎ恒常化する事態を踏まえ、今後の被災地支援は、県老連の支障のない範囲で行うこと。
 - ウ ただし、東日本大震災のような阪神・淡路大震災を超えるような大規模被害が発生した場合は、県老連として可能な限りの支援を行うこと。
- (※ 東日本大震災への支援は、10年間で一定の区切りとすること。)